地域医療のカタチ

市民病院の閉院に伴い体制をさらにアップデート 災害医療と地域医療に貢献

藤井寺市民病院の閉院に伴い、災害医療を支える重要な役割を担うことになった医療法人 ラポール会。3病院の特色を活かしたグループ連携を強みに、地域医療へのさらなる貢献を目指す同グループの決意を各病院院長にうかがった。

医療法人 ラポール会

青山藤ヶ丘病院 **牧野 泰博** 院長

青山病院 **岡田 薫** 院長

青山脳神経外科病院 **河野 寛幸** 院長

藤井寺市民病院の閉院

グループ連携を活かし災害対応体制を強化

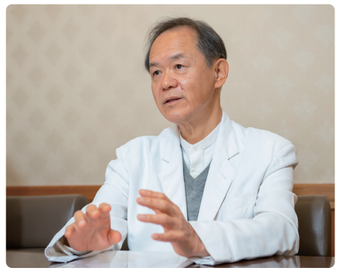
2024年に藤井寺市民病院が閉院し、藤井寺市の災害医療センターとしての役割を担うことになった同グループ。災害発生時に、災害医療の中心として迅速かつ適切な対応が求められる。「これまで以上に3院の連携が重要になりますが、日頃から各病院間で細やかな情報交換を行っていることもあり、災害医療センターとしての体制づくりもスムーズに進んだ印象です」と岡田院長。頭部外傷は青山脳神経外科病院、そのほかの外傷や疾患に関する救急医療は青山病院、それをバックアップする青山藤ヶ丘病院というように災害時のグループ連携について防災対策チームを中心に検討しているほか、大規模な合同災害訓練を実施するなど、着実にその機能を強化させている。

1.同グループは地域の基幹病院である大阪はびきの医療センターと地域医療などに関する連携協定を締結。 2.藤井寺市民病院で注力していた糖尿病の診療体制を強化するため、糖尿病専門医であり市民病院の院長を務めていた内本先生を招聘。 3.地域包括ケアシステムを利用すれば、家族や介護者の休養を目的としたレスパイト入院も可能。 4.2024年6月に市役所や保健所、消防署などが参加する大規模な合同災害訓練を実施。

地域医療の充実に向けて

周辺の医療機関へ特色や強みを発信

より充実した地域医療サービスを提供するため、医師会活動などを通して周辺の医療機関との連携強化にも注力。「各診療所へ挨拶にまわったり、顔の見える関係づくりに努めています」と牧野院長。実際に地域包括ケア病棟やレスパイト入院といったシステムを地域の診療所の先生に発信することで、入院先が見つからず困っていた患者の同グループでの受け入れにつながったケースもあるという。また2024年9月には大阪はびきの医療センターと地域医療連携協定を締結。「これは救急医療においても重要な連携で、お互いの強みを活かした迅速な診療が可能になり、地域における救急医療の貢献につながると感じています」と河野院長は期待を込めて語った。



高齢者の増加による医療ニーズに対応するためには、地域における医療連携に加え、医療従事者の持続可能な働き方を確保できる医療提供体制の整備も必要だと河野院長は話す。

各病院長の展望と決意

地域完結型医療をリードする存在に

最後に各病院長に今後の展望と決意をうかがった。「高齢化が進む社会において、救急医療のニーズはさらに高まると予想しています。グループ病院や連携病院と協力し、〝断らない救急〟を目指して尽力してまいります」と河野院長。牧野院長は「地域の住民や診療所の先生方に気軽にご相談いただける敷居の低い病院づくりを進めていきたいです」と話し、地域交流の場として開催予定の秋フェスについて教えてくれた。最後に岡田院長は「地域の医療ニーズを踏まえ、各病院の特色をどう活かしていくかを常に考えお互いに懐深く連携することで、地域にとって心強い存在であり続けたいです」と力強く締め括った。

地域住民が自由に参加できる秋フェスを開催。市役所や消防署、地元企業などが参加し、筋肉量や体脂肪の測定ブースやキッズコーナーなどが設けられた。

▶ 医療詳細ページ有り 105・106P

hospital data

医療法人 ラポール会 青山病院／TEL:072-953-1211　藤井寺市野中4-16-25　https://www.aoyama-med.gr.jp/medical-rapport/aoyama-hospital/